

F o r e s t 通 信



林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター

No.299

巻頭 photo 高尾山の生き物たち



ニホンイノシシ(イノシシ科)

日影沢入口の荒地で、うり模様の取れたばかりの2頭のイノシシに出会ったのは4年前の年末でした。

この日はサル探しに出かけ、偶然この出会いがあり、慌ててバイクから降りて撮影をしましたが、よほど空腹なのか7~8mまで接近しても逃げる気配がなく、盛んに鼻で地中の餌を探っていました。

10分ほど撮影後、2頭は小仏川に姿を消しましたが、若獣ながらイノシシを激写できたことはラッキーの一言！！

(写真・文 大作栄一郎氏)



ミヤマフユイチゴ(バラ科)

つる性の常緑小低木です。本州、四国、九州に分布しています。茎はつる状で地面を這い、茎や葉柄にトゲがあります。9~10月頃に可愛い白い花をつけ、つやつやした小さな実が集めた果実が11月~1月頃に赤く熟し、食べると甘酸っぱい味がします。また、実が熟す時期はそれぞれ異なりますが、同じバラ科キイチゴ属の仲間には、モミジイチゴ、クマイチゴ、フユイチゴ、ラズベリー、ブラックベリーなどがあります。(ちなみにブルーベリーはツツジ科)

色彩の乏しい冬の森で、きらりと光る自然の宝石です。

いろはの森

紅葉の季節は、京王高尾山駅や国道20号線沿いから高尾山頂までの間、いろはもみじなどの紅葉狩りにくり出した大勢の老若男女であふれかえっています。「旅好きが選ぶ！2013年紅葉が美しい観光スポットTOP 10」では、ここ高尾山も10位と全国的にも知名度が高いのも納得です。

高尾山は、交通の便の良さや山の中腹までケーブルカーで登ることができる手軽さから人気があります。登山する方々は、未就学児から御高齢の老若男女と実に幅が広く、なかにはそのお体で登山できるのかと疑うような方まで。

しかし、高尾山は標高599mと東京スカイツリー634mより低い山ではありますが、急峻な地形もあることから、毎日のように山岳救助隊や救急隊のサイレンが聞こえます。

低い山でも油断は禁物。登山靴などのしっかりとしたシューズを用意し、ヒールやサンダルなどは、大変危険です。そこは山です、危険と隣り合わせ。くれぐれも「これぐらいの山は簡単」「自分は大丈夫」といった考えは捨て、無理のない安全な登山を心掛けましょう。

朝の通勤時に高尾山駅を出た途端、前を歩く男性が白い煙を漂わせているので「喫煙歩行とはマナーを…」と思っていたら、行き交う人々の吐息が白いほど冷え込んでいる師走の今日この頃です。(か)



高尾森林ふれあい推進センターは、皆さんが高尾山の自然に親しみ、森林や林業に理解を深めるための諸活動を行っています。

公募イベント

森林カレッジⅢ～木の成長としくみ～

平成25年11月16日(土)、大平ふれあい館において、森林カレッジⅢを18名出席により開催しました。

午前中は、元森林総合研究所多摩森林科学園園長の三輪雄四郎先生をお招きして、「木の成長としくみ」と題した講義を行いました。

主な内容として木の成長は、幹や枝が太くなる横の成長と、樹高が高くなる縦の成長に大きく分けられる。まず、横の成長とは上塗りするような形で新たな組織を作り太くなっていく。これを肥大成長といい、師部と木部の間にある形成層という組織の中での細胞分裂によって行われている。この年間の成長の差が年輪となる。縦の成長とは、茎頂や根端の成長点にあり縦方向の成長と分化に関係する頂端分裂組織が担い、ビルの建設のように新しい組織がその上に積み重なるように成長する。



三輪先生の講義に聴き入るカレッジ生

樹木が生物学的に生きている部分(核を持った細胞部分)は、形成層や頂端分裂組織にあり、外皮や師部、木部といった部分は死んだ細胞であり、それらが水や養分を送ることや植物体を支える重要な働きを持っている。また、竹は形成層がないため、肥大成長はしない。最初のタケノコの太さのまま、伸びていく。(以上講義内容から)

実際に様々な樹種の木片を使って、木が水に浮かぶかどうかの実験もおこなわれ、世界で一番重いとされる、「リグナムバイタ」が水に沈むと驚きの声が上がっていました。これらの実験によって、木の重さは中に含まれる空気の量によることがわかり、またその構造についても断面の顕微鏡写真などを見ながら理解を深めることができました。



木片を使った実験

最初に木の成長等に関わる試験問題を配り、その解答になぞらえながら大変わかりやすく進む三輪先生の講義を出席者は熱心に聞き入り、予定の時間はあっという間にすぎました。

午後からは、4班に分かれての間伐体験をおこないました。カレッジ生は傾斜地で足場の悪い中での作業に悪戦苦闘しながらも伐倒から搬出までの一連作業を終えて、達成感を感じるとともに、「足場の悪い中での作業は思った以上に大変だった」、「木は想像以上に重かった」等作業の大変さを実感したようでした。



斜面での間伐体験



伐倒した材の枝を扱う

夏の下刈につづき、講義と実技の両面ですらに森林・林業への理解を深める機会となった第3回目のカレッジでした。



森林教室 横浜の小学生が森林体験

秋の気配が深まってきた11月の初め、横浜の下田小学校4年生の皆さん110名が高尾に森林体験に来ました。当センターの利用は初めてで、「子供達に丸太切りを体験させたい」との校長先生の意向で利用することになったそうです。

森林散策では、山に入るのを怖がっていた生徒もいましたが、カツラの葉の甘い香りなどを嗅いだり、サワガニをみつけたりしているうちに怖さも無くなり、元気に散策を楽しんでいました。また、丸太切りでは、1枚目はノコギリを慣れない手つきで一息懸命に引いていましたが、2枚目の時にはどの子も慣れた手つきで扱い、簡単に切り落としていました。短い時間でしたが、森林の中で楽しい時間を過ごせたのではと思います。



サワガニ発見。「山の中にカニがいた！」



丸太切りはみな真剣です。「ちゃんと押さえてね！」



森林教室 八王子市立 みなみ野君田小学校

10月31日(木)、八王子市立みなみ野君田小学校の5年生117名が大平国有林で森林教室を体験しました。

開講式の後、ふれあい館で記念撮影を行い、その後6班に分かれて森林探索を行いました。大平林道では、森林の働きについて説明を受けながら、湧き水に手をつけて、「冷たい！気持ちいい！」、森林の土壌をさわり、「ふかふかしている！！」などの歓喜をあげていました。

午後からは丸太切りや森林教室(講義及びDVD鑑賞)を行いました。みな一枚目は苦勞して丸太を切っていましたが、2枚目からは楽しそうに切り、輪切りを大切に持って帰りました。

子どもたちは初めての体験で、思いっきり楽しんでいました。



高尾山もみじまつり開催

清々しく晴れ渡った秋空に紅葉の赤が映える、「高尾山もみじまつり」。11月29日(金)、高尾森林ふれあい推進センターでは森林・林業のPRイベントとの一環として、「クラフト体験コーナー」を開催しました。題材は一番人気の、「もっくん」。小枝で作る可愛いキーホルダーです。

当日は気温の上がった午後から、順番待ちができるほどの大盛況になり、参加者は楽しそうにキーホルダーを作っていました。また、ブース内に展示した高尾森林ふれあい推進センターの活動内容を記載したパネルにも興味を持っていただけたようです。

毎年地元や登山客の方々と交流できる、「高尾山もみじまつり」。職員一同とても充実したイベントになりました。



年齢問わず人気のもっくん作り



information

シモバシラを探して

真冬の早朝、山道を進むと日の当たらない窪地に不思議な形のものを見ることがあります。氷が枯れた茎を取り巻いています。これはシソ科の植物、「シモバシラ」の氷柱で、地面を踏むとサクサクする、「霜柱」とは異なるものです。



華麗に咲いた氷の花
(撮影:1月)



枯れる前のシモバシラの花
(撮影:10月)

シモバシラは茎が枯れた後も根が活動を続け、茎に水を吸い上げ続けます。そして外気温が氷点下になると茎内部の水が噴き出て凍り付き、様々な形の氷柱ができます。これは地中の根が凍り付くまで続きます。一つとして同じ形のものがなく、シモバシラを目指して撮影に来る人も多いのもうなずけます。この現象は同じシソ科のカメバヒキオコシや、タデ科のミズヒキでも見ることができるようです。

しかしながら氷柱はとてももろく、日が高くなり気温が上がるとすぐに消えてしまいます。氷点下の朝、早起きした人だけ見ることができる貴重な冬の名物です。



編集後記

今年も残すところあと1月となりました。12月は逃げるように早く過ぎ去ると言いますが、毎年その言葉を実感しています。今年の冬は例年よりかなり寒くなるとか、インフルエンザも流行期に入ります。皆様体調に気をつけて、よい新年をお迎えください。今年も1年ありがとうございました。(ま)



information

冬の絶景・ダイヤモンド富士



「ダイヤモンド富士」とは、皆既日食の際の、「ダイヤモンドリング」になぞらえ、富士山の山頂部に太陽が重なる光景が、まるでダイヤモンドが美しく輝いているように見えることからそう呼ばれています。高尾山では冬至の前後の期間、日没時のわずかな時間に見ることができます。天気の良い空気が澄んだ日は、鑑賞できる可能性が高いようです。お勧め鑑賞ポイントは、山頂やもみじ台などです。

この季節の山中はかなり寒くなります。お出かけの際はしっかりと防寒対策をし、歩きやすい靴で行きましょう。また、日が落ちると街灯のない山道は真っ暗になりますので、足元を照らす懐中電灯やヘッドライトを忘れずに携帯してください。ケーブルカーを利用する場合は時刻表の確認をお忘れなく。この季節だけ見ることができる絶景をお楽しみ下さい。

高尾森林ふれあい推進センター
展示室・木工体験室
年末年始の休館日のご案内
12月27日(金)～1月6日(月)まで
新年は1月7日(火)から開館いたします

Forest通信 No.299

発行:高尾森林ふれあい推進センター

Forest通信へのご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問合わせ先

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター

〒193-0844 東京都八王子市高尾町2438-1

TEL 050-3160-6040 FAX 042-663-7229

